

2015年度 第2四半期 決算説明会

富士フイルムホールディングス株式会社

2015年10月28日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おください。

本日はお忙しいところお集まりいただき有難うございます。

富士フイルムホールディングス株式会社 2015年度第2四半期決算について、
ご説明させていただきます。

2015年度上期 業績 (2015年4月~9月)

(単位:億円)

	2014年度上期	2015年度上期	対前年度
売上高	11,829 100.0%	12,261 100.0%	432 +3.6%
営業利益	716 6.1%	807 6.6%	91 +12.7%
税金等調整前 四半期純利益	758 6.4%	846 6.9%	88 +11.6%
当社株主帰属 四半期純利益	406 3.4%	469 3.8%	63 +15.8%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	84.13円	98.84円	14.71円
為替 :米ドル	103円	122円	19円安
:ユーロ	139円	135円	4円高

*営業利益 増減要因(対前年度) 為替:+32億円、原材料:+19億円

2

2015年度上期は、

フォトイメージング事業、メディカルシステム事業、グラフィックシステム事業、ドキュメント事業などで売上を伸ばし、売上高は前年比432億円増の1兆2,261億円となりました。

営業利益は、各事業における収益性の改善などにより、前年比12.7%増の807億円となりました。

税金等調整前四半期純利益は、前年比11.6%増の846億円、

当社株主帰属四半期純利益は、前年比15.8%増の469億円となりました。

セグメント別：連結売上高／営業利益

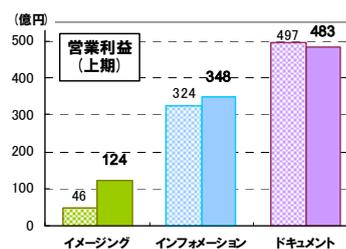
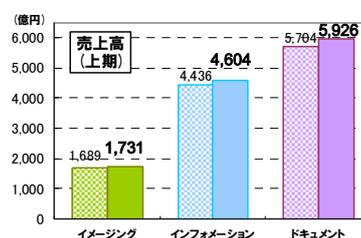
(単位:億円)

売上高	上期		対前年度
	2014年度	2015年度	
イメージング	1,689	1,731	42 (+2.4%)
インフォメーション	4,436	4,604	168 (+3.8%)
ドキュメント	5,704	5,926	222 (+3.9%)
合計	11,829	12,261	432 (+3.6%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	上期		対前年度
	2014年度	2015年度	
イメージング	46	124	78 (2.7倍)
インフォメーション	324	348	24 (+7.4%)
ドキュメント	497	483	-14 (-2.7%)
全社/連結調整	-151	-148	3
合計	716	807	91 (+12.7%)



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージング ソリューション部門の売上高は、
前年比2.4%増の1,731億円、
営業利益は前年比2.7倍の124億円となりました。

インフォメーション ソリューション部門の売上高は、
前年比3.8%増の4,604億円、
営業利益は前年比7.4%増の348億円となりました。

ドキュメント ソリューション部門の売上高は、
前年比3.9%増の5,926億円、
営業利益は前年比2.7%減の483億円となりました。

セグメント別 概況

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
1,731	42 (+2.4%)	124	78 (2.7倍)

・ フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に大きく伸長。「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大、プリント機器・材料の拡販により全体で売上が増加。

・ 電子映像では、デジタルカメラの高級機へのシフトに伴い販売台数は減少したものの、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売が好調に推移。

・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が低調に推移し売上減少。

**フォトイメージングにおける売上増
などにより増収増益**

4

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に大きく伸長しました。

また、「Year Album」や「シャッフルプリント」などの付加価値プリントビジネスの拡大、プリント機器・材料の拡販により、全体で売上が増加しました。

なお、“チェキ”の年間販売台数は当初460万台を計画しておりましたが、過日500万台に上方修正いたしております。

電子映像では、デジタルカメラの高級機へのシフトに伴い販売台数が減少したものの、プレミアムデジタルカメラ「Xシリーズ」の販売が好調に推移しました。

引き続き付加価値の高い交換レンズのラインアップを拡充し、さらなる拡販を進めていきます。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が低調に推移し、売上が減少しました。今後4Kカメラ対応の放送用ズームレンズの拡販などにより、売上拡大を図ります。

イメージング ソリューション部門は、フォトイメージングで売上を伸ばし、その売上増に伴う粗利の増加などにより増収増益となりました。

セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

売上高	対前年度	営業利益	前年比
4,604	168 (+3.8%)	348	24 (+7.4%)

(単位:億円)

- ・ メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断など成長分野での販売が好調に推移し売上が増加。
医薬品は富山化学の売上増に加え、バイオ医薬品受託製造が堅調に推移し、売上が増加。
- ・ フラットパネルディスプレイ材料は、偏光板の在庫調整などの影響を受け売上が減少。
液晶テレビ向けの拡販、中小型ディスプレイ向けに薄膜品の拡販を推進。
- ・ 産業機材ではエクスクリアなど新規事業の販売が好調に推移、電子材料では先端品のフォトレジストや処理剤などの販売が好調に推移し、売上が大幅に増加。
- ・ 記録メディアは、データストレージ用磁気テープの販売は好調に推移したものの、業務用ビデオテープの総需要減により売上が減少。
- ・ グラフィックシステムでは、産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調で売上増加。

フラットパネルディスプレイ材料の売上は減少したものの、
メディカルシステム、グラフィックシステムなどでの売上増、
収益性改善などにより増収増益

5

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアのうち、メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、超音波診断など成長分野での販売好調により、売上が増加しました。独自性のある新製品の投入や新興国での拡販により、年度でも成長分野での対前年2ケタ%の売上成長を見込んでいます。

医薬品は、富山化学工業の売上が増加したことに加え、バイオ医薬品受託製造が順調に伸張り、売上が増加しました。また、研究開発においては、抗がん剤やアルツハイマー型認知症治療薬などのパイプラインの開発を着実に推進しています。

また、再生医療事業では、iPS細胞の開発・製造のリーディングカンパニーであるCellular Dynamics International社の買収を5月に完了し、連結子会社化しました。再生医療製品開発の加速、事業領域の拡大を進めていきます。

フラットパネルディスプレイ材料は、偏光板の在庫調整などの影響を受け売上が減少しました。今後液晶テレビ向けの拡販、需要が拡大している中小型ディスプレイ向けに薄膜品の拡販を推進していくと共に、偏光板に留まらない新規分野への展開を図っていきます。

産業機材では、エクスクリアや太陽電池用バックシートなど新規事業の販売が好調に推移したことなどにより、売上が大幅に増加しました。電子材料では先端品のフォトレジストや処理剤などの販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。9月には米国の高純度溶剤製造・販売会社のUltra Pure Solutions社と買収契約を締結しました。これによる製品ラインアップの拡大などを通じてさらなる事業成長を図ります。

記録メディアは、業務用ビデオテープの総需要減少の影響を受け、売上が減少しましたが、データストレージ用磁気テープの販売は堅調に推移しました。世の中全体のデータ量の飛躍的増加に伴い、大量のデータを保有するIT業界を中心に、データの長期保存に磁気テープを活用する大きな流れが出来つつあります。当社は、独自技術によるテープ高容量化で業界をリードすると共に、データアーカイブサービスのさらなる展開を進めていきます。

グラフィックシステムでは、産業用インクジェットヘッドなどの販売が好調に推移し、売上が増加しました。デジタルプリンティング機器などの拡販によりさらなる売上拡大を図ります。

インフォメーション ソリューション部門は、在庫調整などの影響によりフラットパネルディスプレイ材料事業の売上は減少したものの、メディカルシステム、グラフィックシステムなどでの売上増、収益性改善などにより、増収増益となりました。

セグメント別 概況

■ ドキュメント ソリューション

(単位: 億円)			
売上高	対前年度	営業利益	前年比
5,926	222 (+3.9%)	483	-14 (-2.7%)

- ・ 売上は、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し、全体でも増収となった。
 - オフィスプロダクトは、国内でのカラー複合機、アジア・オセアニア地域でのモノクロ複合機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加。
 - オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でのカラー機の販売が好調に推移し、売上が増加。
 - プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム及びモノクロ・プロダクション・プリンターの販売が好調に推移し、売上が増加。
 - グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、国内及びアジア・オセアニア地域ともに売上が増加。
- ・ 営業利益は、粗利の増加があったものの、米ドル高による原価アップ等により減益。

アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上増により
増収となるも、為替影響等により減益

ドキュメント ソリューション部門については、

アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出の売上が増加し、全体でも増収となりました。

オフィスプロダクトは、国内でのカラー複合機、アジア・オセアニア地域でのモノクロ複合機の販売が好調に推移し、全体で販売台数が増加しました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でのカラー機の販売が好調に推移し、売上が増加しました。

プロダクションサービスは、カラー・オンデマンド・パブリッシング・システム及びモノクロ・プロダクション・プリンターの販売が好調に推移し、売上が増加しました。

グローバルサービスは、マネージド・プリント・サービスが好調に推移し、国内、アジア・オセアニア地域ともに売上が増加しました。

営業利益は、売上増に伴う粗利の増加があったものの、米ドル高による原価アップの影響などにより減益となりました。

連結貸借対照表

(単位:億円)				
	13年度末	14年度末	15年9月末	対14年度末
現金及び現金同等物	6,046	7,269	6,285	-984
受取債権	6,368	6,810	6,212	-598
棚卸資産	3,637	3,725	3,764	39
有価証券 その他流動資産	1,566	1,628	1,690	62
流動資産計	17,617	19,432	17,951	-1,481
有形固定資産	5,303	5,274	5,274	0
営業権	4,231	5,050	5,283	233
投資有価証券 その他資産	5,119	5,810	5,707	-103
固定資産計	14,653	16,134	16,264	130
資産合計	32,270	35,566	34,215	-1,351
(単位:億円)				
	13年度末	14年度末	15年9月末	対14年度末
長短社債及び借入金	3,597	3,497	3,527	30
支払債務	2,659	2,690	2,424	-266
その他流動 固定負債	4,032	4,705	4,384	-321
負債計	10,288	10,892	10,335	-557
株主資本計	20,206	22,327	21,533	-794
非支配持分	1,776	2,347	2,347	0
純資産計	21,982	24,674	23,880	-794
負債・純資産 合計	32,270	35,566	34,215	-1,351
(単位:円)				
期末日 為替レート	13年度末	14年度末	15年9月末	対14年度末
米ドル	103	120	120	-
ユーロ	142	130	135	5円安

次に、バランスシートについてご説明します。

2015年9月末時点の資産合計は、現金及び現金同等物の減少や、受取債権の減少などにより、2015年3月末時点と比べ、1,351億円減の3兆4,215億円となりました。

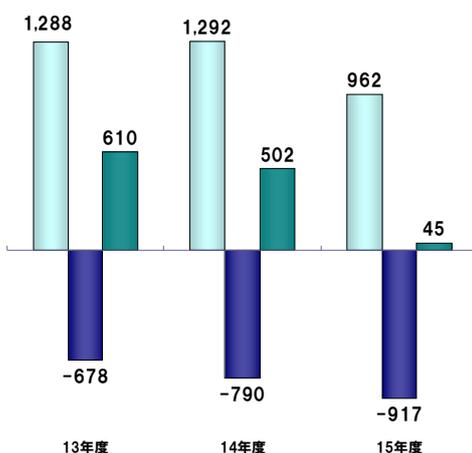
負債は557億円減の1兆335億円、株主資本は自己株式取得などにより、794億円減の2兆1,533億円となりました。

流動比率は、前期末に比べ0.1ポイント増の312.4%、負債比率は0.8ポイント減の48.0%、株主資本比率は0.1ポイント増の62.9%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー
■ フリー・キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー（上期）



(単位:億円)

	13年度 上期	14年度 上期	15年度 上期
四半期純利益	410	488	557
減価償却費	680	591	575
受取債権の増(-)減(+)	333	400	435
棚卸資産の増(-)減(+)	76	-38	-55
営業債務の増(+)-減(-)	-126	-197	-203
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-37	-43	-204
その他	-48	91	-143
営業活動によるCF	1,288	1,292	962
設備投資	-379	-322	-291
ソフトウェアの購入	-116	-106	-121
有価証券・投資有価証券等の売却・購入	-42	-202	43
その他	-141	-160	-548
投資活動によるCF	-678	-790	-917
フリー・キャッシュ・フロー	610	502	45
営業活動によるCF+設備投資	909	970	671

8

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、962億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業の買収や有形固定資産の購入などにより、917億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは45億円のプラスとなりました。

以上で、2015年度第2四半期決算の説明とさせていただきます。

2015年度 連結業績予想 (2015年10月28日時点)

	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	(単位:億円) 2016年度目標 (VISION2016)
売上高	24,926 100.0%	25,800 100.0%	874 +3.5%	26,300 100%
営業利益	1,724 6.9%	1,900 7.4%	176 +10.2%	2,200 8.4%
税金等調整前 当期純利益	1,971 7.9%	1,900 7.4%	-71 -3.6%	—
当社株主帰属 当期純利益	1,186 4.8%	1,200 4.7%	14 +1.2%	1,200 4.6%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	245.94円	※ 248.85円	2.91円	—
ROE	5.6%	5%台半ば	—	7.0%
為替 :米ドル	110円	120円	10円安	100円
:ユーロ	139円	135円	4円高	135円
銀価格(/kg)	64,000円	64,000円	—	76,000円

※算定上の基礎となる期中平均株式数については、
2015年3月末の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用。

■2015年度配当金 中間:32円50銭/株を実施 年間:65円/株を予定

9

続きまして、2015年度の連結業績予想ですが、当初の予想から変更してありません。

この通期業績予想達成に向け順調に進捗しており、
第3四半期以降も引き続き成長戦略を推進していきます。

最後に配当金についてですが、当年度の中間配当金は、1株当たり32円50銭といたしました。

当年度の年間配当金につきましては、対前年5円増配の、1株当たり65円を予定しております。

以上、2015年度第2四半期決算及び、通期業績予想についてご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

2015年度第2四半期 決算説明会

参考資料

2Q/上期 業績

(単位:億円)

	2014年度2Q	2015年度2Q	対前年度	2014年度上期	2015年度上期	対前年度
売上高	6,245 100.0%	6,352 100.0%	107 +1.7%	11,829 100.0%	12,261 100.0%	432 +3.6%
営業利益	418 6.7%	445 7.0%	27 +6.5%	716 6.1%	807 6.6%	91 +12.7%
税金等調整前 四半期純利益	459 7.4%	400 6.3%	-59 -13.0%	758 6.4%	846 6.9%	88 +11.6%
当社株主帰属 四半期純利益	252 4.0%	226 3.6%	-26 -10.1%	406 3.4%	469 3.8%	63 +15.8%
為替 :米ドル	104円	122円	18円安	103円	122円	19円安
:ユーロ	138円	136円	2円高	139円	135円	4円高

*営業利益 増減要因(上期 対前年度) 為替: +32億円、原材料: +19億円

12

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	899	882	-17 (-2.0%)	1,689	1,731	42 (+2.4%)
インフォメーション	2,387	2,423	36 (+1.5%)	4,436	4,604	168 (+3.8%)
ドキュメント	2,959	3,047	88 (+3.0%)	5,704	5,926	222 (+3.9%)
合計	6,245	6,352	107 (+1.7%)	11,829	12,261	432 (+3.6%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	14 [1.5%]	79 [8.9%]	65 (5.8倍)	46 [2.7%]	124 [7.1%]	78 (2.7倍)
インフォメーション	197 [8.2%]	199 [8.2%]	2 (+1.0%)	324 [7.3%]	348 [7.5%]	24 (+7.4%)
ドキュメント	280 [9.4%]	242 [7.9%]	-38 (-13.2%)	497 [8.6%]	483 [8.1%]	-14 (-2.7%)
全社/連結調整	-73	-75	-2	-151	-148	3
合計	418 [6.7%]	445 [7.0%]	27 (+6.5%)	716 [6.1%]	807 [6.6%]	91 (+12.7%)

<当スライドは配付資料です>

2Q(3ヶ月) セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調で、フォトイメージングの売上が増加。
- 電子映像は、高級機へのシフトに伴い販売台数が前年同期比で大幅に減少したものの、新製品の「FUJIFILM X-T10」を中心に「Xシリーズ」の販売が好調に推移。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が減少。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステムでは特に超音波画像診断装置の売上が海外を中心に好調に推移。医薬品は、富山化学の売上増に加え、バイオ医薬品受託製造も堅調に推移し売上が増加。
- フラットパネルディスプレイ材料は、偏光板の在庫調整等の影響を受け、売上が減少。
- 産業機材は、「エクスクリア」、太陽電池用バックシート等の新規事業の販売の好調等により売上が大幅に増加。電子材料は先端品のレジストや処理剤等の販売が好調に推移。

■ ドキュメント ソリューション

- 売上高は、オフィスプリンター、プロダクションサービス、グローバルサービスで増加し、全体でも増収。
- 営業利益は、米ドル高による原価アップの影響等により減益。

<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
フォトイメージング	600	618	18 (+2.9%)	1,089	1,201	112 (+10.3%)
電子映像	165	162	-3 (-2.1%)	339	325	-14 (-4.5%)
光学デバイス	134	102	-32 (-23.6%)	261	205	-56 (-21.3%)
光学・電子映像	299	264	-35 (-11.8%)	600	530	-70 (-11.8%)
合計	899	882	-17 (-2.0%)	1,689	1,731	42 (+2.4%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
イメージング	14 [1.5%]	79 [8.9%]	65 (5.8倍)	46 [2.7%]	124 [7.1%]	78 (2.7倍)

15

<当スライドは配付資料です>

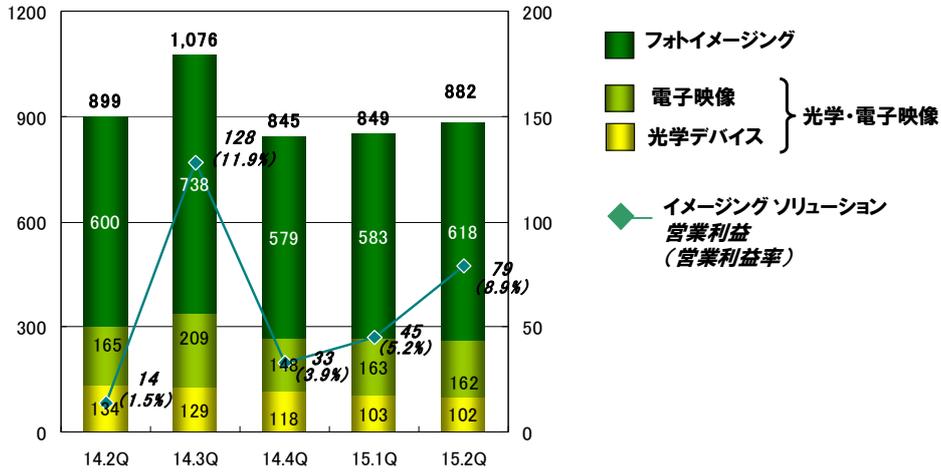
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
ヘルスケア	966	1,040	74 (+7.6%)	1,734	1,920	186 (+10.7%)
フラットパネル ディスプレイ材料	343	247	-96 (-28.1%)	647	456	-191 (-29.5%)
産業機材/電子材料	228	269	41 (+18.0%)	430	522	92 (+21.5%)
高機能材料	571	516	-55 (-9.7%)	1,077	978	-99 (-9.2%)
記録メディア	119	110	-9 (-7.0%)	224	218	-6 (-2.3%)
グラフィックシステム	718	740	22 (+2.9%)	1,370	1,455	85 (+6.2%)
その他	13	17	4 (+33.8%)	31	33	2 (+6.7%)
合計	2,387	2,423	36 (+1.5%)	4,436	4,604	168 (+3.8%)

*セグメント間取引消去後

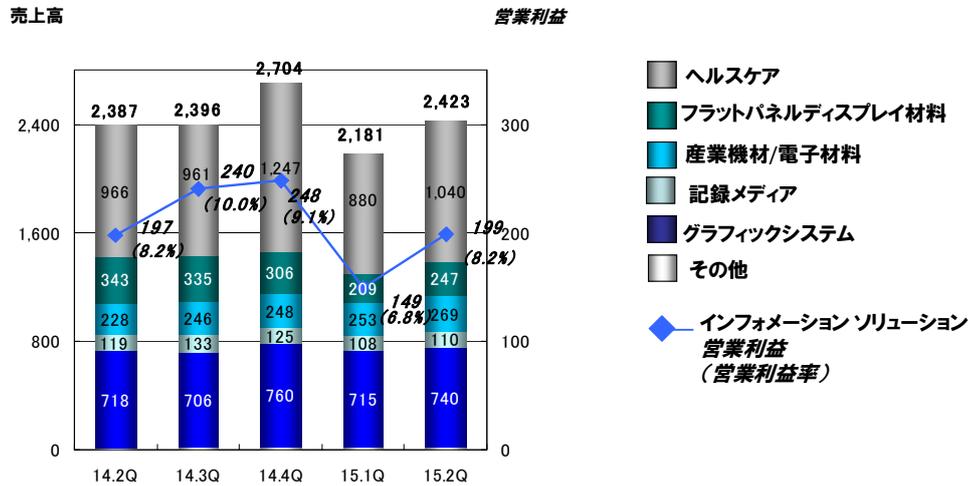
(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
インフォメーション	197 [8.2%]	199 [8.2%]	2 (+1.0%)	324 [7.3%]	348 [7.5%]	24 (+7.4%)

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション (単位: 億円)



<当スライドは配付資料です>

2Q/上期 業績

■ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,324	1,312	-12 (-0.9%)	2,589	2,567	-22 (-0.9%)
オフィスプリンター	463	486	23 (+4.9%)	900	1,001	101 (+11.2%)
プロダクションサービス	400	425	25 (+6.4%)	743	805	62 (+8.4%)
グローバルサービス	468	503	35 (+7.7%)	867	943	76 (+8.9%)
その他	304	321	17 (+5.4%)	605	610	5 (+0.8%)
合計	2,959	3,047	88 (+3.0%)	5,704	5,926	222 (+3.9%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	2Q			上期		
	2014年度	2015年度	対前年度	2014年度	2015年度	対前年度
ドキュメント	280 [9.4%]	242 [7.9%]	-38 (-13.2%)	497 [8.6%]	483 [8.1%]	-14 (-2.7%)

<当スライドは配付資料です>

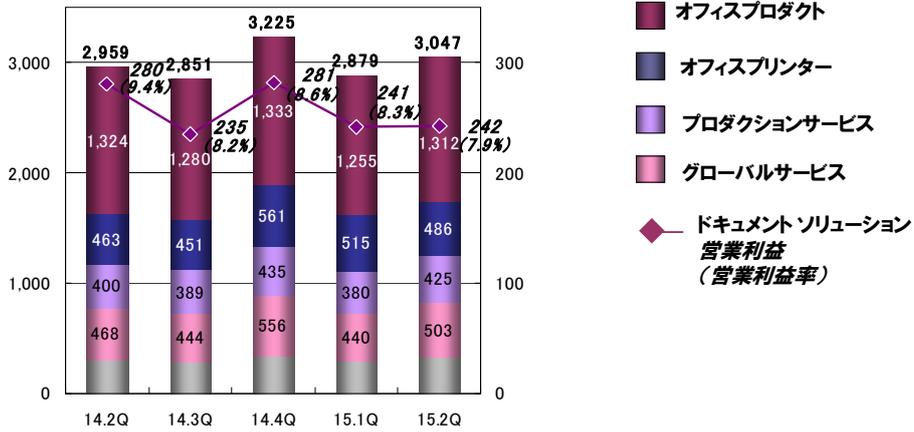
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2014年度上期		2015年度上期		対前年度	
	構成比 (%)		構成比 (%)			
日本	41.2%	4,879	39.0%	4,780	-99	(-2.0%)
米州	18.6%	2,201	21.1%	2,583	382	(+17.3%)
欧州	11.8%	1,391	11.1%	1,364	-27	(-1.9%)
内、中国	10.8%	1,275	11.3%	1,389	114	(+9.0%)
アジア他	28.4%	3,358	28.8%	3,534	176	(+5.2%)
海外	58.8%	6,950	61.0%	7,481	531	(+7.6%)
合計	100.0%	11,829	100.0%	12,261	432	(+3.6%)

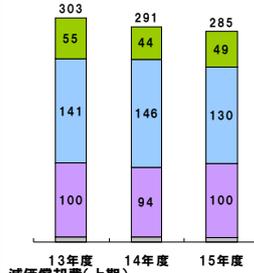
21

<当スライドは配付資料です>

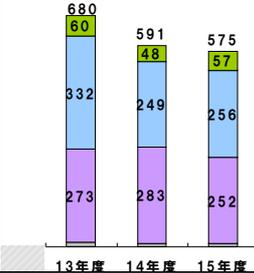
設備投資、減価償却費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

設備投資(上期)



減価償却費(上期)



(単位: 億円)

年度	2Q			上期			通期		
	2013	2014	2015	2013	2014	2015	2013	2014	2015 (予想)
イメージング	23	29	31	55	44	49	93	79	-
インフォメーション	74	80	59	141	146	130	324	293	-
ドキュメント	67	55	63	100	94	100	239	173	-
コーポレート	4	4	4	7	7	6	14	16	-
設備投資 ※	168	168	157	303	291	285	670	561	800
イメージング	29	24	26	60	48	57	135	111	-
インフォメーション	167	127	129	332	249	256	686	510	-
ドキュメント	143	144	128	273	283	252	561	587	-
コーポレート	7	5	6	15	11	10	32	21	-
減価償却費	346	300	289	680	591	575	1,414	1,229	1,250
有形固定資産の 減価償却費 ※	220	166	155	426	323	307	907	651	700

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

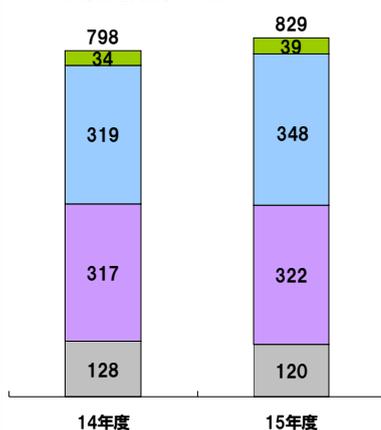
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(上期)



年度	2Q		上期		通期	
	2014	2015	2014	2015	2014	2015 (予想)
イメージング	17	22	34	39	68	-
インフォメーション	165	173	319	348	657	-
ドキュメント	166	162	317	322	629	-
コーポレート	64	61	128	120	257	-
研究開発費	412	418	798	829	1,611	1,650
<売上高比>	6.6%	6.6%	6.7%	6.8%	6.5%	6.4%
販売費及び一般管理費	1,548	1,625	3,046	3,170	6,280	-
<売上高比>	24.8%	25.6%	25.7%	25.8%	25.2%	-

23

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2014年度						2015年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	通期(予想)
米ドル	102	104	103	115	119	110	121	122	122	120
ユーロ	140	138	139	143	134	139	134	136	135	135

*2015年度 営業利益 為替感応度 米ドル:8億円、ユーロ:8億円

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2014年度						2015年度			
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	上期	通期(予想)
銀	65	67	65	62	64	64	64	60	62	64

人員

(単位:人)

	2014.9末	2014.12末	2015.3末	2015.6末	2015.9末
連結	80,590	80,248	79,235	78,792	78,158

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み	2014年3月承認(アビガン錠 [®])
			米国	Ph III 実施中	国防省の助成金により臨床試験実施中
T-3811	キノロン系合成抗菌薬	経口	中国	承認申請中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌薬	注射	米国	Ph I 終了	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II 実施中	Alzheimer's Disease Cooperative Study (ADCS) と臨床試験実施中
			日本	Ph II 実施中	京都大学IPS細胞研究所との共同研究によりバイオマーカーの探索・特定を目指す
T-4288	マクロライド系抗菌薬	経口	日本	Ph II 実施中	
ITK-1	<small>バイオ</small> 去勢抵抗性前立腺がん治療薬	注射	日本	Ph III 実施中	
FF-10501	再発・難治性骨髄異形性症候群治療薬	経口	日本	Ph I 実施中	
			米国	Ph I 実施中	
FF-21101	<small>バイオ</small> 進行・再発非小細胞肺癌/脾がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	MDアンダーソンがんセンター(米国)と臨床開発推進中
FF-10502	進行・再発脾がん/卵巣がん治療薬	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
F-1311	前立腺がん診断薬(放射性医薬品)		日本	Ph II 実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、米国、その他でPh III 実施中。
FKB238(ベバシズマブバイオシミラー)は、欧州でPh I 実施中。

25

<当スライドは配付資料です>

2015年度 セグメント別業績予想 (2015年10月28日時点)

売上高	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	2016年度目標 (VISION2016)
イメージング	3,610	3,700	90	3,600
インフォメーション	9,536	9,900	364	10,300
ドキュメント	11,780	12,200	420	12,400
合計	24,926	25,800	874	26,300

(単位:億円)
*セグメント間取引消去後

営業利益	2014年度	2015年度 (予想)	対前年度	2016年度目標 (VISION2016)
イメージング	207	280	73	250
インフォメーション	812	900	88	1,050
ドキュメント	1,013	1,050	37	1,250
全社/連結調整	-308	-330	-22	-350
合計	1,724	1,900	176	2,200

(単位:億円)

26

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2015

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2015/index.html

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2015年 2月 ドキュメント事業説明会
- 2015年 5月 イメージング事業説明会

・カンファレンス資料

- 2015年 3月 大和インベストメントカンファレンス東京2015

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

27

<当スライドは配付資料です>

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社
経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>